ドイツ連邦食料・農業省　　農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 13
２０２２・９・２６

１エズデミール大臣：2023 年度連邦財政の重点に関する議会演説
ーこの財政でもって必要な変革を奨励ー　　（2022・9・8）

議場の皆さん！

私と連邦食料・農業省は、将来性のある農業のために、日々働いています。この際、私ははっきりと申し上げたい。過去の実績を攻めるようなことは致しません。私達は、この財政でもって、農業のための必要な変革を奨励したい。危機に抵抗力のあること。気象と種の多様性を守ること。同時に私達の生存基オ盤を守ることに、明日からもまた貢献できるようにしたい。

連邦議会で演説する
エズデミール食料・農業大臣

私達は研究に投資します。私達は、発展のために投資し、そして将来においてもこれを保ちます。農業の社会福祉保障は、再び安定した地位にあります。

私は農村発展のために投資し、同時に私達の研究環境を革新し、そして将来においてこれを保って行きます。私達は、持続可能な農業のために刺激を与えるためにも、有機農業を強化します。

私達は、緊急に必要とするデジタル化を促進するとともに、持続可能な原料を奨励し、同時に農村地域を強化します。そして私の仕事の中心に、将来を見据えた家畜飼育への転換に立ち向かいます。なぜならば、このことは畜舎で、牧草地でそして店のカウンターで、私達全員にとっても、将来的にも決定的です。まさに家畜飼育に取り掛かっている農業者の忍耐力は、既に数年来から厳しくなっています。

家畜の福祉のための飼育方法の転換を、最終的な軌道にのせています。私達は、1 億 5　000 万 €（約 195 億円）の財政でもって、将来に向けた家畜飼育の道をスタートさせました。私達は、今後ともこの額をさらに増加します。
今、政治が求められています。つまり、畜舎の改造を奨励すること。そして私は強調します。この財政でもって支援すること。そしてこの転換が最終的に自ら担うことができるように。

農業者は、家畜に優しい飼育形態への転換を望んだ時、国の計画の確実性が必要です。これについて決定的なことは、私達の肉がさらにドイツから、または将来的に外国からくるかどうかです。これははっきり言えることです。つまり、私は連邦農業大臣として、この肉がドイツからもたらされること。そして適切に飼育された家畜に由来することです。ところで穀物と野菜もまた、家畜飼育を必要としています。つまり、糞尿と堆肥が肥料として用いられているからです。

私達は、家畜の飼育に際して、農業者の意味においても、適切な問題解決をもたらすと楽観的です。同僚の皆さん。この財政でもって私達の国における家畜飼育の将来について決定づけます。私は勿論望んでいます。私は今一度言いたい。より多くの家畜福祉のために、経常的なコストの融資もまた、必要でありこれを支援します。
私達はこれでもって最終的に１つのボタンをかけることとなります。

家畜保護と私達の農業の将来は、森林とそして湿地もまた決定的に影響します。そこは地球の温暖化の影響と、気象危機との闘いへの適応は、同じ程度で行われなければなりません。私達は、生物多様性と健全な森林を、「気象保護者」として必要としています。そのため、私達はここ数年間で総額 9 億 €（約 1170 万円）を、気象保護と生物多様性に優しい管理に投資します。同時に私達は、森林を大事に世話します。そしてそこで生きている人々を支援します。

私は同時に湿地と腐植の減少防止のために投資します。私は森をエアコンの一種として挙げたい。私はトップとして連邦環境省のステフイ　レムケに感謝したい。なぜならば、環境省の財政において重要な力点を設定したことです。
　私は特に湿地保護のテーマに対して、積極的に取組んでいるニーダーザクセン州の農業者の方々に名前を挙げて感謝したい。

このことは当然のことでありません。なぜならば、”心に手をつないでいるからです。これは強制、努力そして必要な妥協と結びついています。しかし、親愛なる野党同僚の皆さん。まさに今の挑戦に立ち向かい、そして首をすくめている時でありません。農業の将来委員会は、評価出来ないほどの活動をしてます。農業連盟、そして環境連盟は大きな力を持っています。両者の古くからの溝を克服するために、多くの努力と投資をしてきました。

世界的な飢餓に対して、取組みを希望している人々の中には、食料を輸入している貧しい国々の依存に対して、簡単に稼いでいる国があります。それらの国は、これを助けることはありません。古いレシピを持ち出している人がいますが、私達は騙されません。前政権党の CDU/CSU（キリスト教民主同盟/キリスト教社会同盟）は、異なった約束として私達の取組みを批判していますが、相互の信頼性、妥協の意欲そして節度が、かってのあなた方の美徳とみなされていました。このことが再び蘇れば、大変素晴らしいことです。

親愛なるみなさん！農業の変革にブレーキをかける人は、農民との友人でなく、全く反対です。私達は変革に際して農業者を、支援しなければなりません。
このため、私は決定に際して必要性を、実行に当たって視野に入れて試行します。しかし、はっきりさせねばなりません。気象、土壌、水そして種の多様性の保護が、決定的に明確でなければなりません。そのため、私達は将来を見据えた農業の変革を、この財政でもってさらに促進します。

ドイツ連邦議会

２エズデミール大臣：畜舎建設に木材の活用促進で連邦建設大臣と意見交流

ー両大臣は木材の気象―環境保護効果で建造物に利用拡大ー（2022・9・23）

連邦住居、都市開発・建設大臣クララ ゲイヴィッツ並びに連邦食料・農業大臣 チェム エズデミールは、畜舎改造と木材建築について、シュットットガルトとその近郊で、意見交換を行った。まず第一に木造建築を専門化している経営を訪問した。

両大臣は、持続可能な建築材料としての木材の重要性が、木材イニシアチブの頂点になっていることを強調した。

木材を使った豚舎を視察する
両大臣・右側がクララ大臣

連邦建設大臣クララ ゲイヴィッツ：”建物建設における木材の利用は、連邦政府の重要な関心事である。木材は CO ２を蓄積し、長期間にわたる耐久性があり、そして再利用が可能である。さらに再生可能な原料としても扱われる。同時に木材は、気象保護のために重要な貢献を果たす。この間に木材を投入又は木材建築一部門を強化する建設業において、より多くの革新的な企業が存在する。この前向きな発展は、国によって支援されねばならない！このため、我々は連邦農業省と共同で、木材イニシアチブを創設する。我々は、建物建設における木材の使用に、追い風を与えたい。”

エズデミール大臣：”有用性と実用性を結びつけること。我々は木材建築イニシアチブに期待する。なぜならば、まさに気象に優しい住居建設にとって、持続可能な林業からの木材は重要な原料である。これは効率性と持続可能な建設だけでなく、炭素をも長期的に結びつけ、気象を保護する原料である。 建設分野において木材建築は、これまで建物の木材構造とシュル（訳注・自在な曲線からなる建築物）が、炭素を蓄積する。同時に最終的に資源を節約し、そして不良なエコバランスの原料に置き替えできる。”

両大臣の次の日程は、養豚の畜舎視察となった。ここで両大臣は家畜飼育改造の必要性に関して、改造を望んでいる経営がどのような挑戦が必要かを、実地に触れることができた。建物一計画法において、どのような変更が必要かといった情報を得ることができた。

エズデミール大臣：”ドイツの家畜飼育は、我々がより多くの家畜の福祉並びに気象ー環境保護に配慮する場合のみ、良き将来を手にすることができる。

我々は連邦政府として農業者を支援する。その際、畜舎を家畜の種に適するように改造を行い、そして畜舎に付随した運動場のスペースを必要とする。

飼育の特徴としての改造に係る木造畜舎の表示マークはまだ、検討の途上にあるが、しかし、改造のためのスタート資金は確保している。同時に畜舎は、建物―計画法をさらに変更したとき、円滑に改造できる。それからより多くの農場が、家畜に新鮮な空気と運動場を創りたいという、意欲を持ちそして刺激を受けている。私は連邦建設大臣の支援について、ここで喜びたい。”

連邦建設大臣クララ：”我々は家畜の福祉の意味において、建築上の規則改善に取組む。”

木造の牛舎ー多くの農業者が見学に

運動スペースのある木造豚舎

木造の農業機械の格納庫

3　ウクライナ戦争で苦境に苦しむ農業者への支援プログラムの支払い

ー 42 000 強の農業経営に 1 億 8 000 万 € の支払いー　（2022・9・12）

ウクライナ戦争の結果：特別な被害に遭遇している農業経営のために、総額 1 億 8　000 万 €（約 234 億円）の支払いについて、非官僚主義のもとで目的に合った一連の支援策のためにスタート号砲を発した。ロシアのウクライナへの国際法違反の侵略の影響に、特に遭遇している業種の経営のために、適応支援の支払いを、今日（9 月 12 日）開始した。

エネルギー価格の高騰に苦しむ農業経営を支援

エズデミール大臣：”我々は苦境に苦しむ農業者に救済の手を延ばし、同時に高騰しているエネルギー価格を、農業者が負担できるようにする。今日から目的に合致した支援を、42 000 の経営に支払う。これは高騰するエネルギー価格によって、特に困窮に該当する経営である。なお、今月中に約 1 億 3500 万€（約 169 億円）の額が農場に届く。その際、我々は農業者のために手続き上簡単にできるよう配慮している。農業者は面倒な手段と申請方法無しで、完全にこの援助資金を入手できる。

全体で 1 億 8 000 万€（約 234 億円）が、調整補助金として第 2 の支援プログラム―小規模補助プログラムに活用する。最初は 4 113 の農業経営に対して、1 億 34 868 723€（約 175 億 3 300 万円）の額が支払われる。残りの財源は、小規模支援プログラムに予定している。EU 一法規定基準に基づいて、第 2 のプログラムについての申請期間は、多分 10 月になるだろう。この適応支援は、小規模支援プログラムもまた、1 経営当たり 15 000€（約 195 万円）が限度額である。約 3 800 経営が、今適応支援金を手にできる。”

適応支援は、以下のように適切な分野に区分されている。

適用分野	配分額€	配分額 %	経営数
ワイン用ぶどう	3 737 154,95	2,8	4
果　　樹	4 719 357,10	3,5	5
ホップ	2 606 870,41	1,9	1
アスパラガス	5 106 699,92	3,8	1
ソフトフルーツ	2 279 545,21	1,7	3
肥育豚	13 413 071,04	9,9	19
母豚飼育	57 689 284,32	42,8	7
仔豚飼育	737 912,43	0,5	5
肥育鶏鳥	209 889,91	0,2	1
ブロイラー	12 714 893,05	9,4	1
肥育七面鳥	6 093 622,52	4,5	（記述なし）
肥育鴨	399 955,00	0,3	1
ぶどう生産	1 472 577,10	1,1	3
機械生産の果樹栽培	644 354,48	0,5	1
加工用野菜	10 733 659,06	8,0	2
生鮮野菜	7 656 378,88	5,7	2
集約野菜栽培	4 653 497,58	3,5	3

注）ソフトフルーツ：イチゴ、ブルーベリーなど固い皮や大きな種のない果物

この適応支援は、農業、林業そして園芸の社会保険（SVLFG）から支払われる。これは EU 一要件との合致において、持続性と結びついている。前提条件は、2021 年にいわゆる緑化一報奨金を、特定の持続可能な農業方法で手にしていることである。EU の要因は、農業奨励金であり、これは気象一環境奨励上の農業管理が義務づけられている。これによって権利のある経営の範囲が明らかに規定され、そしてこの場合は申請手続き無しに支払われる。

母豚飼育の専門農場

４エズデミール大臣：ウクライナからの代替輸送ルートの確立を歓迎

一植物油の輸出をポーランド経由バルト海の港へ一（2022・9・16）

連邦食料・農業省エズデミール大臣は、ウクライナからポーランドを通って、バルト海に至る食物油一パイプラインの建設計画を歓迎した。これに対応した設置計画は、ウクライナの同僚大臣ミコラ・ ソルスキーが、今日金曜日（9 月 16 日）に、プラハにおける非公式農業理事会において、EU 一加盟国に紹介した。

ウクライナ産植物油の輸出用パイプラインの新設を計画

それによると、このパイプラインはポーランド政府と共同事業として、ウクライナの国境の街､ヤホデインからポーランドのバルト海グダニスク港に続く。

これは新しい輸出ルートの拡大である。この件については、既に数日前にソルスキーが、エズデミール大臣にこの計画を、相互会談の中で紹介している。

エズデミールは、ウクライナ支援を確約し、そして強調した。これはプーチンを信用できないことを､黒海協定を破棄するという最近の脅しが示している。そのため、私はさらに持続的な代替え輸送ルートの建設を、明確に支援する。そしてウクライナの世界市場へのアクセスを確保するために、そしてこれにはウクライナの独立と主権が含まれている。”

連邦大臣エズデミールは、ウクライナの農業大臣のアピールの後、さらにEUのためのウクライナの国境地帯での積替えターミナルの拡張、並びに北海ーバルト海への高度に緊急性をもった、EU ー港への鉄道回廊の建設を支持した。

エズデミール大臣：”輸出問題がウクライナの緊迫した経済的関心事であり、それが今もまだ続いている。戦争によって2月末以来、そしてウクライナの黒海の港のロシアによる封鎖で、数百万ｔの穀物が輸出出来ないでいる。同時にウクライナのサイロと穀物倉庫への、ロシアの狙い定めた攻撃によって、貯蔵容量が減少している。プーチン戦争は、世界の貧困国の人々の飢餓を、一層厳しくしている。しかし、一方ではここ数カ月における我々とヨーロッパ、そして国際的な協力によって穀物輸出が再び増加し、そして穀物市場がゆっくりとであるが、再び安定して来たことを私は喜んでいる。

しかし、なお依然としてロシアはこの犯罪的な戦争を仕掛けているが、早く終わらせなければならない！”8月初めに国連参加のもとに、黒海におけるウクライナの輸出の部分的な再開が仲介された。そして鉄道、道路そして内陸港を通じた、選択的な輸出ルートの拡大（いわゆるEU 一連帯回廊地域）によって、世界市場への食料供給状況の緊張緩和をもたらしている。これによって穀物価格が明らかに低下してきてる。

エズデミールは最後に強調した：”200日以上続いている国際法違反のロシアのウクライナ侵略は、ヨーロッパの平和秩序に対する攻撃であり、そして今生じている危機の否定的な影響が、世界的に厳しくなっている。このため、EU内の団結が、現在これまで以上に重要になっている。ロシアの侵略当初から、連邦食料・農業省は支援している。ドイツの食品企業の食料の寄付は、困窮しているウクライナの人々に、輸送している。そして「ドイツ食料ブリッジ（橋）」を確立するために、直ちに調整センターを設置している。

さらに戦争の影響を受けているドイツ国内の農業者に対して、生産を維持しそして生産再開を支援している。そのため、例えばこの事態に対応した緊急的な資金を準備している。また緊急に必要とする家用の薬の入手、または産物の交流を促進するために、ルーマニア国境に「実験室」を拡大するための資金を準備している。”

パイプラインの起点・ウクライナ国境の町ヤホデイン

パイプラインの終点・ポーランド・グダニスク港

EU 内陸ルート・鉄道回廊（ドイツ）

5エズデミール大臣：国民の半数以上が暮らす農村に都市と同じ生活条件を
ー現在の農村の抱える課題で専門化会議で対応策を検討ー（2022・9・21）

第３期の専門化会議委員の委員に任命された 12 人

連邦大臣エズデミールは、新しい専門委員を任命した。エズデミール大臣は、第三期の農村地域発展専門家会議（SRLE）委員を、新たに招集した。この中立の専門家評議員会議は、連邦食料・農業省の農村地域政策について審議する。連邦食料・農業省政務官 Dr.マヌエラ ロットマン出席のもとに、設立会議が今日（9 月 21 日）自らの仕事を開始した。

この日の前夜、連邦食料・農業大臣がかってのそして新たに、再任命された委員と会食をした。各専門化委員がボランテイア的な仕事に対して、感謝の言葉を述べた。

エズデミール大臣：”国民の半数以上が農村で生活している。農村地域の長所と特別性を大事にし、そして都市と農村の生活条件に配慮すること。これは私にとって中心的な課題である。私の青春時代のシュベービッシュ　アルプの中心にいた頃を、あまりにも良くしっている。

例えば、鉄道列車がもはや走らない。福祉の課題が欠けていること。そして医者の診察所と店が閉じている。

例えば今日、デジタルとの接続という、更なる挑戦が加わる。そして我々は、エネルギー、交流そして暖房転換に成功し、そして農村地域がその中で利益を得ることが、できるようにすることに取組んでいる。

それだけに一層、私は喜んでいる。つまり、我々は農村地域に関する 12 人の職業上の専門家を任命している。中立のそして有能な委員会であることを、喜んでいる。委員会は、言葉と行動で我々に助言してくれる。この委員会の委員は、３年間の任命である。2015 年以来、この委員会の課題は中立の立場での助言である。連邦食料・農業省は、子の助言を農村発展に関する自らの政策に生かしている。”

その際、特に人口移動、公共サービス、社会福祉そして生活条件、経済、金融、土地利用並びに環境と保養を配慮している。専門家は、このために適切な知見を練り上げている。テーマの設定は、この委員会が自ら行った。これは連邦省の助言の必要性に基づいている。以下の専門家がこれから 3 年間委任を任命される。

ー ドイツ連邦農村女性連盟委員長 ペトラ ベントケンパ
ー LEADER（訳注・農村地域発展のための共同体イニシアチブ）ー行動グループ連邦協会委員 Dr ハルトムート ベルント
ー 教授・Dr.ペーター デーネ　ノイブランデンブルグ大学計画法/建設法
ー ラテイ ハミエ アルホムシ　ヴァルデック　フランケンベルグ地区統合委員
ー カリン ハームズ　アルマーラント地区委員
ー クリント　ケルマーＬＡＧ　メールキッシュズイーン（統合農村開発サービス）
ー Dr.ビルギット　ククース　マルクトエルバッハ初代市長
ー 教授・Dr. アンネ カトリン　ニーバー労働市場ー職業研究所
ー Dr.ヒルデクラート　サンダー　ニーダーザクセン州手工業代表
ー ザーラ学校ーサラ シュルテ デイングハウス　カトリック青少年農村運動連邦議長
ー 教授・Dr.　ピーターワインガルテン農村地域生活条件チューネン研究所所長
ー 教授・Dr.クラウデイア ノイ　レールストールス農村地域社会福祉家
　　ゲッチンゲン　カーゼル大学

人口流出に伴って農村の抱える課題：

医師不足、公共バスの撤退、自然エネルギーの生産、就業の場の確保、高齢者のデジタル化対応など。

：

農村の患者をテレ診察で

予約制のオンデマンドバスで農村の「足」を確保

農村は自然エネルギーの宝庫

農村地域にコワーキングスペースを

ボランテイアが高齢者にパソコンの指導

多機能ハウスがむらの中心に。日常品店、医師の診察、郵便など１つ屋根の下に。
（連邦保健省の奨励事業）

２０２２・9・24　訳
青森中央学院大学
地域マネジメント研究所
中川　一徹